

スーパーホースネットの考案

名古屋市消防局（愛知） 森 寿慶
則武 亨
大福 彰吾

1 はじめに

現在、中高層火災における火災戦闘の際に、当消防局では、廊下などの共用スペース、ベランダ等のコンパクトなスペースで使用する「狭所活動用ホース」を多く活用している。

しかし、急を要する現場活動において、この「狭所活動用ホース」が充水の際に設定の不備によりホースが折れ曲がり筒先の放水圧が下がる、必要以上に広がる等、活動の支障となる場合が多く見られる。

そこでホース設定の際に、より迅速、確実に設定出来るものはないかと考え、容易にホースを設定及び搬送できるスーパーホースネットを開発するに至った。

スーパーホースネットを作成するにあたり、「狭所活動用ホース」を充水した時と比べ、ホースが綺麗な円形で収まり、常にコンパクトになる適正な大きさになる形状を考慮し、素材をトラックのタイヤチューブとし、初めはチューブ1個で試作品を作成した。その際、タイヤチューブに複数の穴を開け、軽量化と伸張性を出そうと試みたが、思ったほど拡張せず、ホースがうまく収まらなかった。そこで、タイヤチューブ2個をつなぎ合わせ今回の試作品とした。また、OHバンドを使用し、持ち運び及び収納を容易にした。

2 スーパーホースネットの特長

- (1) 火災出動時、火点室前ででの設定の際に、スーパーホースネットの大きさ以上にホースが拡張することがないため、迅速かつ確実に狭所での活動ス

ペースの確保、消火活動が出来ること。

(2) 充水後、縦置きが出来るため、ベランダ等の幅が狭く横置きが出来ない場合でも使用することが出来ること。

(3) 作成にあってはタイヤチューブやOHバンドを使っているため、作成時の資材の調達が容易で、コストパフォーマンスが優れていること。

スーパーホースネット (平面図)

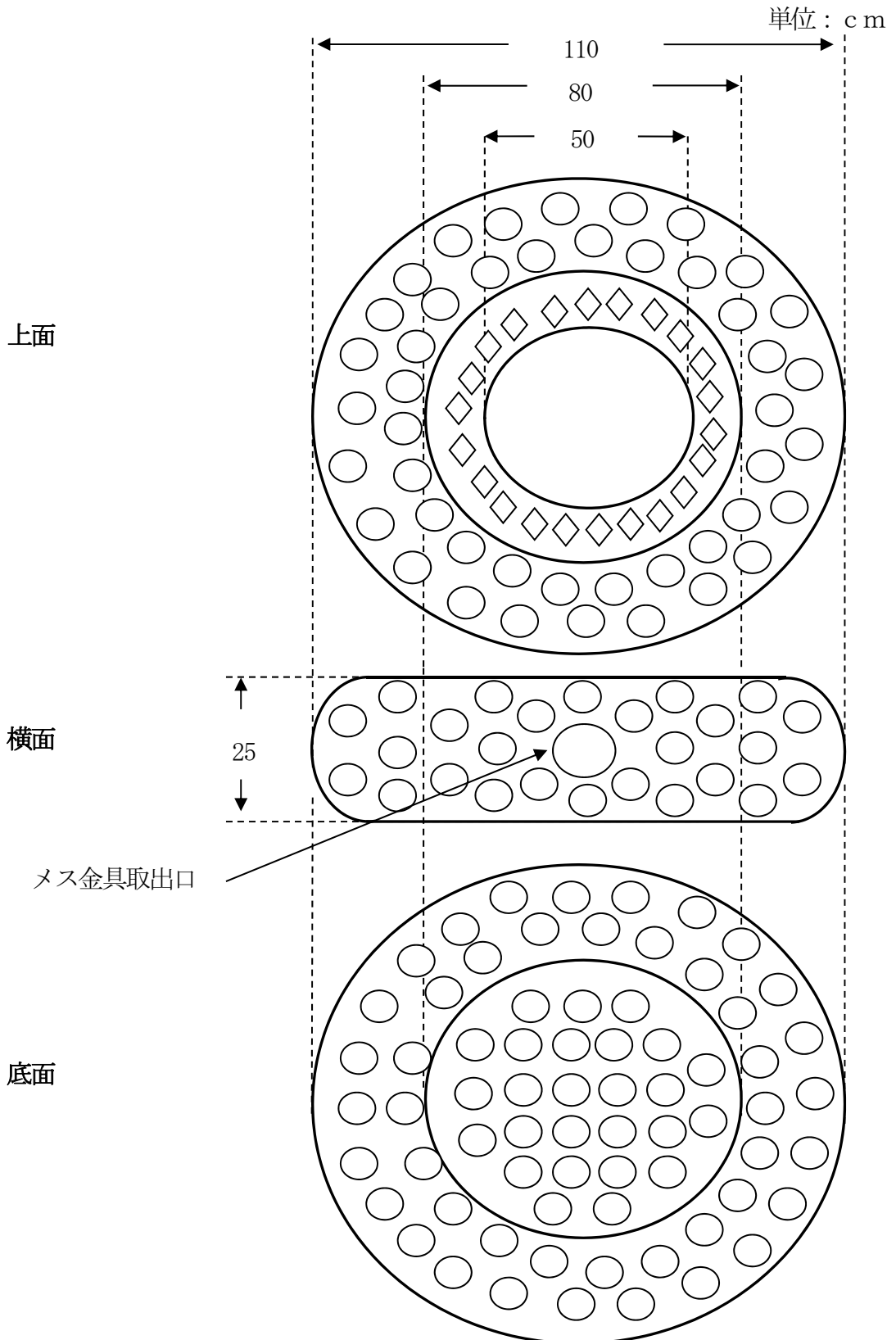
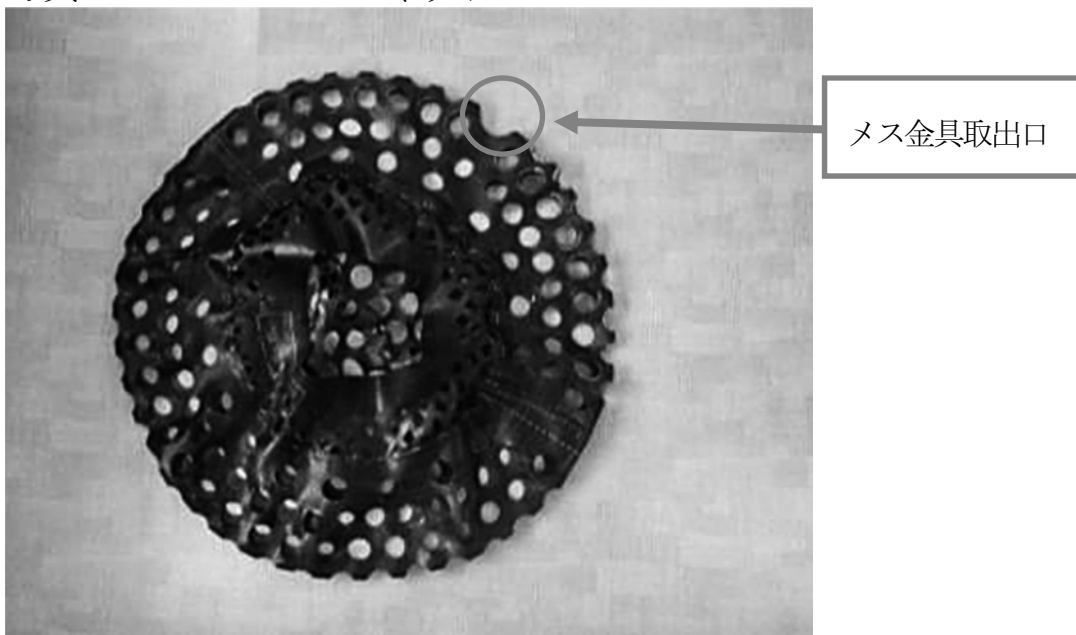


写真1 スーパーホースネット



1 収納方法 (写真2～4 参照)

- (1) 一重巻きの渦巻きホースをスーパーホースネットの大きさに合わせて緩めに巻き、スーパーホースネット内に収める。
- (2) メス金具をメス金具取出口から取り出し、オス金具に管そうを結合する。
- (3) スーパーホースネットを二つ折りにして、OHバンドで縛着する。

写真2 一重巻きの渦巻きホース (緩めに巻く)

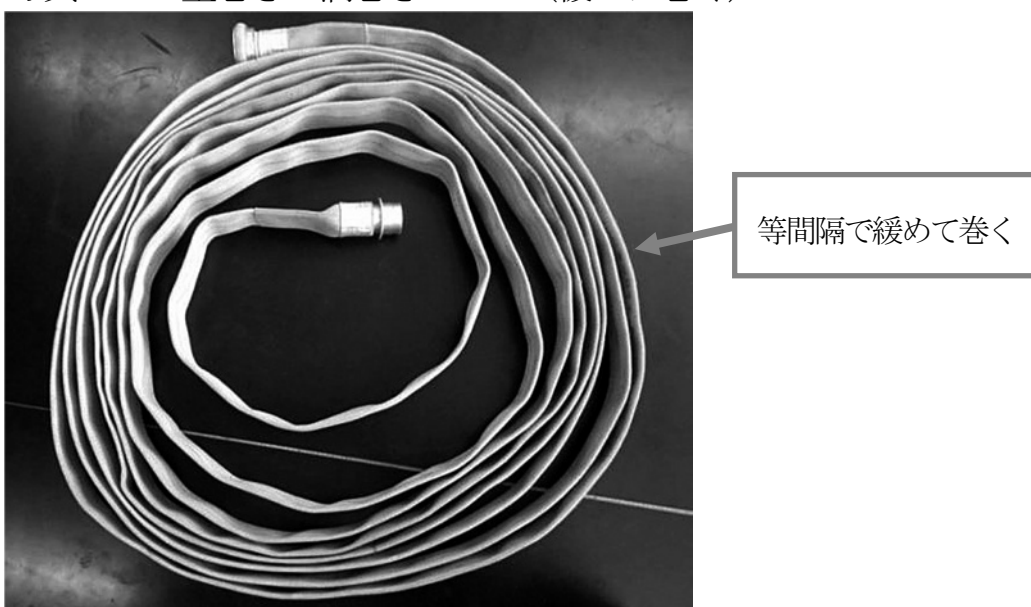


写真3 スーパーホースネット (ホース収納時)

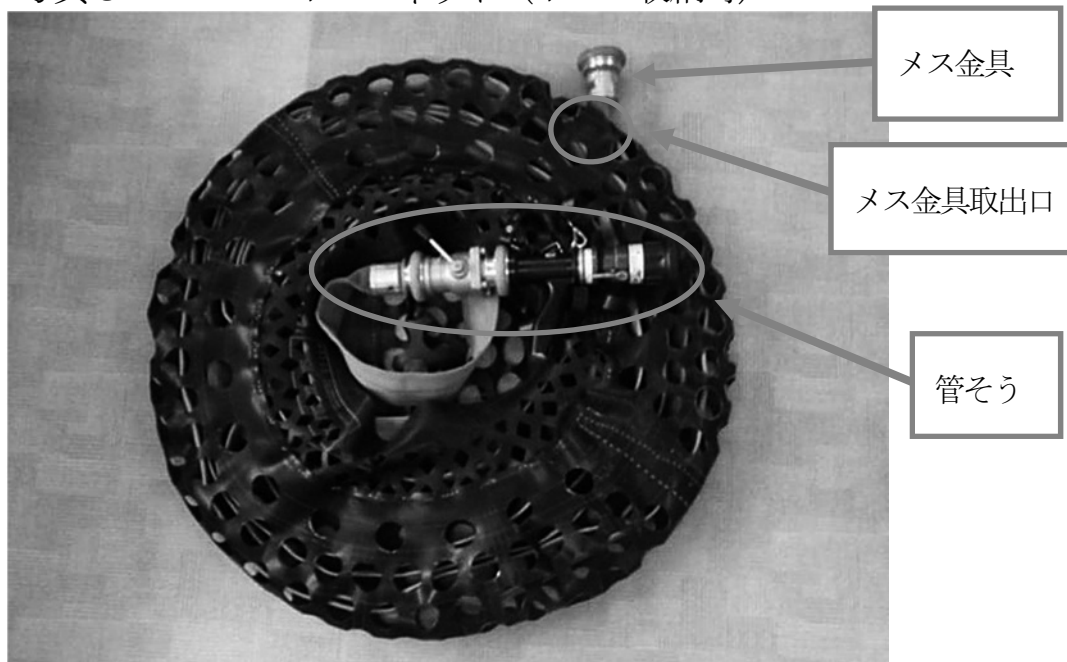


写真4 スーパーホースネット (OHバンド設定時)



2 搬送方法（写真5参照）

OHバンドの吊り紐を肩にかけ、持ち手を片手で持ち搬送する。

写真5 スーパーホースネット（搬送時）



3 設定方法（写真6～9参照）

- (1) スーパーホースネットを下ろし、OHバンドをはずし展開する。
- (2) スーパーホースネットから出ているホースのメス金具に分流金具、若しくはストップバルブの付いた元ホースを結合する。
- (3) 管そうを持ち、分流金具、若しくはストップバルブのバルブを開き充水する。
- (4) 充水によりスーパーホースネット内で一重巻きホースが円形に拡張する。
- (5) 充水完了後、延長方向にスーパーホースネットからホースを引き出しながら延長する。（縦置きにする場合は、充水完了後、スーパーホースネットごと持って縦に置く。）

写真6 スーパーホースネット (展開時)



写真7 放水体勢 (ホース充水時)



充水するとホースがバック内で円形に広がり綺麗に収まる。

写真8 放水態勢（ホースを引き出した状態）



写真9 放水態勢（縦置き）

